

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型障害福祉サービス事業所 ライフチャレンジ		
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日		令和7年3月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7件	(回答者数) 7件
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日		令和7年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8件	(回答者数) 8件
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・活動プログラムを定期的に見直し、支援内容の提供	・活動プログラムが固定化されない様、毎月、職員で活動プログラムの内容立案を行っている。また、事業所に子ども達向けに「リクエストボックス」を設置し、活動プログラムに入れ込む事で、子ども達が楽しんで取り組める内容を設定している。	・5領域や利用されている子ども達のニーズを汲み取りながら、活動内容のバリエーションを増やし、成長を促せる活動プログラムを立案・提供していく。
2	法人の中で、ライフチャレンジが主に未就学～低学年、ライフイズビューティフルが高学年と、年齢に合わせた自立に向けての継続的な支援を提供している。また、地域移行を目的に弊社が率先してイベント、行事など体験をして地域の方と関わり、将来、地域で生活できるように様々な地域移行を行い、社会への自立を促している。	・長期休み、土曜日、祝日、学休日等を利用して、法人での合同行事（社会見学、工場見学、地域交流：運動会、ハロウィン）、保護者交流（クリスマス会、餅つき等）を開催し、色々な年代の児童との交流や様々な体験できる場を設けている。また、市内の地域の方との情報を大事にしながら、子ども達に必要な資源の開拓を進めている。	福祉団体以外のコミュニティを増やし、適切な関係性を構築していく。
3	研修制度が充実している。県外からSSTの土屋先生をお招きして様々な研修を開催。県外での状況や保護者面談等、スタッフと保護者様も研修に参加して支援の振り返りと今後の目標等を確認している。	毎回、保護者様やスタッフからの研修内容について聞き取り、研修内容を確認していく。	今年は性教育の研修を開催調整していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援者のスキルアップ。支援者の育成について研修だけでは補えない、連携や実勢、事業所の考え方、大切にしていることを理解し、仕事へ達成感を感じてもらおうを理解してもらう。	個別の面談や支援中に好ましい支援を見ながら褒めることや支援を一緒に考えていくことを続けていく。	日々の業務中の役割分担の整理と目的の明確化を図ること。
2	避難訓練実施の際のご家族への周知	契約時の説明や年に2回の訓練を実施しているが、当日参加していない児童保護者への周知不足があった。	SNS等を使用した活動内容の周知。非常時、児童の引き渡し場所や方法を家族と共有したり、欠席児童の家族との連携（安全確認など）のルール化が必要。今後内容・具体的な取組みを検討していく。
3	業務や記録等をIT化して子供達と関わる時間を増やす。	業務をIT化して時代にあった業務効率に取り組み、簡素化できることは取り組んでいく。	情報収集と企業さんと連携し、安定した業務効率を図る。